

St. Luke's International University Repository

フィンランドの看護教育

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水野, 恵理子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/408

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



報 告

フィンランドの看護教育

水野恵理子¹⁾

要 旨

2000年5月、フィンランドにおけるいくつかの大学教育機関へ訪問・見学する機会を得た。欧米に比べて、北欧の看護教育についてはほとんど知られていない。本稿では、この研修において見聞できた内容と資料をもとに、フィンランドの看護教育について紹介する。

キーワード

フィンランド、看護教育、学部、大学院

I. はじめに

2000年5月17日から27日まで、フィンランドの精神科関連施設および大学施設の訪問見学、看護学会参加の機会を得た。そこで今回は、フィンランドにおける大学教育の概要と看護教育について紹介する。

フィンランドの教育システム(図1)は日本と同様、小学校6年間、中学校3年間となっている。高校が、普通高校と職業訓練を目的とした学校に分かれる。その後、大学教育を行うポリテクニクまたはユニバーシティへ進む。ポリテクニクとは、科学技術総合専門学校のことであり、学部レベルの教育が行われている。ポリテクニクでは大学院の教育は行われていないので、大学院へ進む場合はユニバーシティへ入学する。

II. ポリテクニクの教育システム

フィンランドにおけるポリテクニクによる教育体制が整ったのは1991年からであり、1998年の時点では34校ある。ポリテクニクでは、一定の基準に達した実務者教育を行い、現在の雇用条件や環境が必要とするものを学ぶことを目的としている。学生一人一人が勉学に対する責任をもち、情報が氾濫し多様化している現代において、自分で適切な情報を取捨選択していくことが重要であることを強調している。そこで、トゥルク市とセイナ

ヨッキ市にあるポリテクニクについて紹介する。

1. トゥルク・ポリテクニク

トゥルク市はフィンランドの南端、アウラ川河口に位置する人口17万人の国内第4の都市であり、文化と商業の町とし知られている。

トゥルク・ポリテクニクの学期は8月末～12月までの秋学期と1月～5月末の春学期の2期に分かれている。専攻できる領域は、ソーシャルヘルスケア、技術工学、美術・メディア、経営管理、自然科学、服飾・美容、ホテル経営、レストラン業、クリーニング業と多彩であり、社会のニーズに合った実務者になるための教育を目的としている。国際化という視点から、ほとんどの課程は英語とスウェーデン語で行われている。また、近隣都市のポリテクニクはもちろん、国内外の大学や研究機関との連携がしっかりしており、交換留学生の制度も充実させている。そして、4年間のプログラムを終え、卒業時には学士号(BA, BSc.)取得となる。

2. セイナヨッキ・ヘルスケア・ポリテクニク

トゥルクから北へ列車で約4時間、人口3万人の地方都市であるセイナヨッキ市にあるポリテクニクは、1995年6月、市評議会により常設の総合技術専門校として認可された。専門領域は自然資源学、経営管理学、技術工学、社会福祉・健康科学、文化学の5領域であり、学位の種類は、森林管理学、食品工学、産業管理学、経営管理学、社会福祉学、健康科学など全部で16種類となっ

1) 聖路加看護大学 助手(精神看護学)

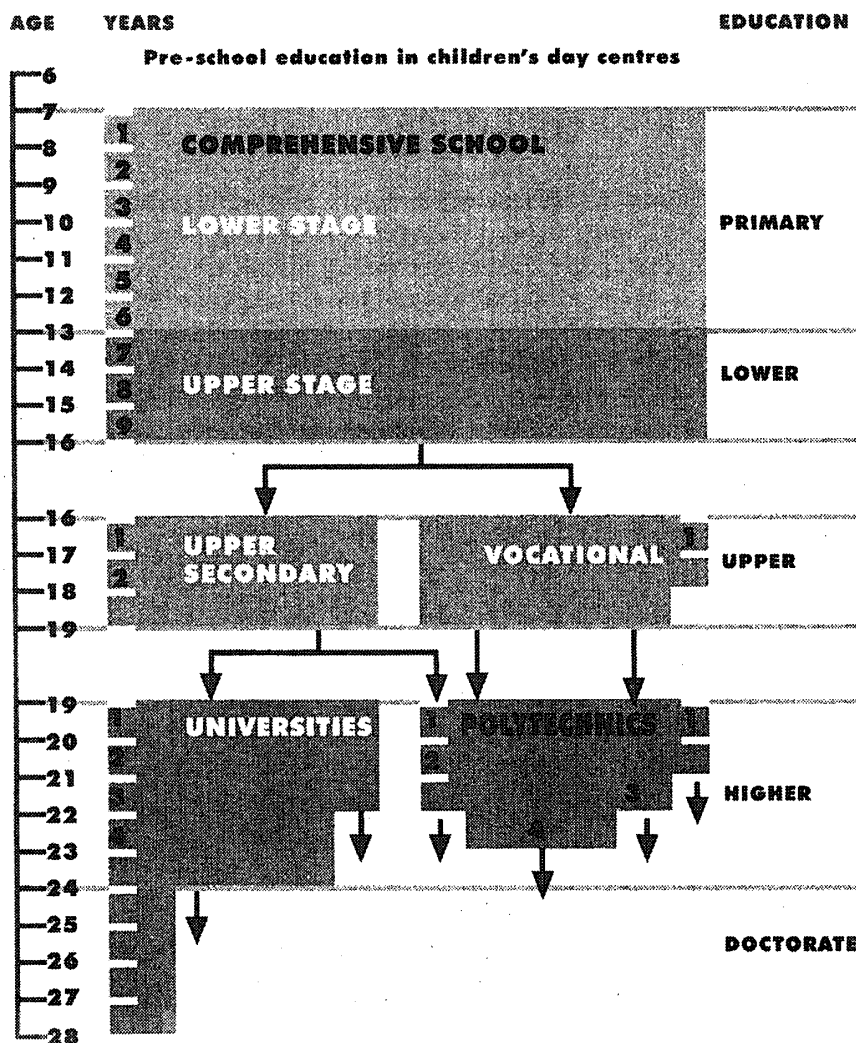


図1 フィンランドの教育システム

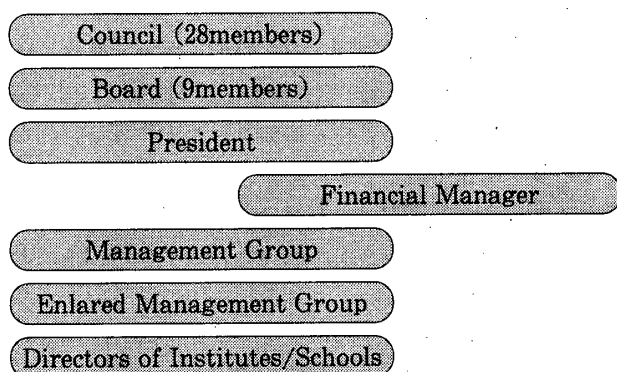


図2 セイナヨッキ・ポリテクニクの組織図

ている。1998年の在学生数は夜間部の社会人学生を含め2,500名で、職員は300名となっている。セイナヨッキ市には、ビジネススクール、ソーシャルワークスクール、技術工学スクール、ヘルスケアスクールがあり、看護教育はヘルスケアスクールで行われている。

また、国際交流にも力を入れており、毎年約160名の学生が海外留学をしている。同時に多数の留学生の受け

入れも行っている。卒業論文のための研究も海外で行うことが可能であり、これはヨーロッパユニオンプログラムによってサポートされている。

看護学の教育が行われているセイナヨッキ・ヘルスケア・ポリテクニクは、1995年8月から上級レベルの職業教育を目的としている。1998年の在学生数は462名である。健康科学とリハビリテーションの2つのプログラムがあり、社会福祉学のプログラムとも連動しており、登録看護師（RN）と登録公衆衛生看護師（PHN）、理学療法士、老人看護エキスパートの育成を行っている。

組織図（図2）にあるように、評議委員会は28名、理事会は9名の市議会議員で構成されている。そして、学長が1名、各専門領域における学部長が8名で、教員は全員マネジメントグループに属する。ちなみに、健康科学領域の教員は、Head of the Institute 1名（専門は教育カウンセリング学）、Principal Lecturer 4名（理学療法学2名、臨床看護学2名）、Senior Lecturer 32名（臨床看護学12名、公衆衛生看護学7名、理学療法3名、研究法2名、助産学1名、保健管理学1名、社会学1名、教育カウンセリング学1名、成人教育学1名、臨床実験学1名、語学1名、体育学1名）、Full-time teacher 1名（臨床看護学）で構成されている。

学生の入学選抜は、前の学校の成績、社会的貢献として意味のある活動の有無（16歳からの健康、リハビリテーション領域における活動）、入学試験（心理テスト、語学、グループ面接、個人面接）の結果による。

学位取得プログラムは、Degree Program in Health Studies/Registered Nurse or Public Health Nurse という名称になっている。看護学と公衆衛生看護学のどちらかを選択し、それぞれRNとPHNを目指す。プログラムは140単位で修了には3年半を必要とし、1) 基礎教育、2) 専門教育、3) 高等教育、4) 自由選択研究で構成されている（図3）。単位数は、1 credit units=1.5 ECTSが40時間となっている。ECTSとはヨーロッパ単位移行システム（European Credit Transfer System）のことで、欧州連合（EU）での異なる教育システムの中での単位互換が可能であることを意味する。

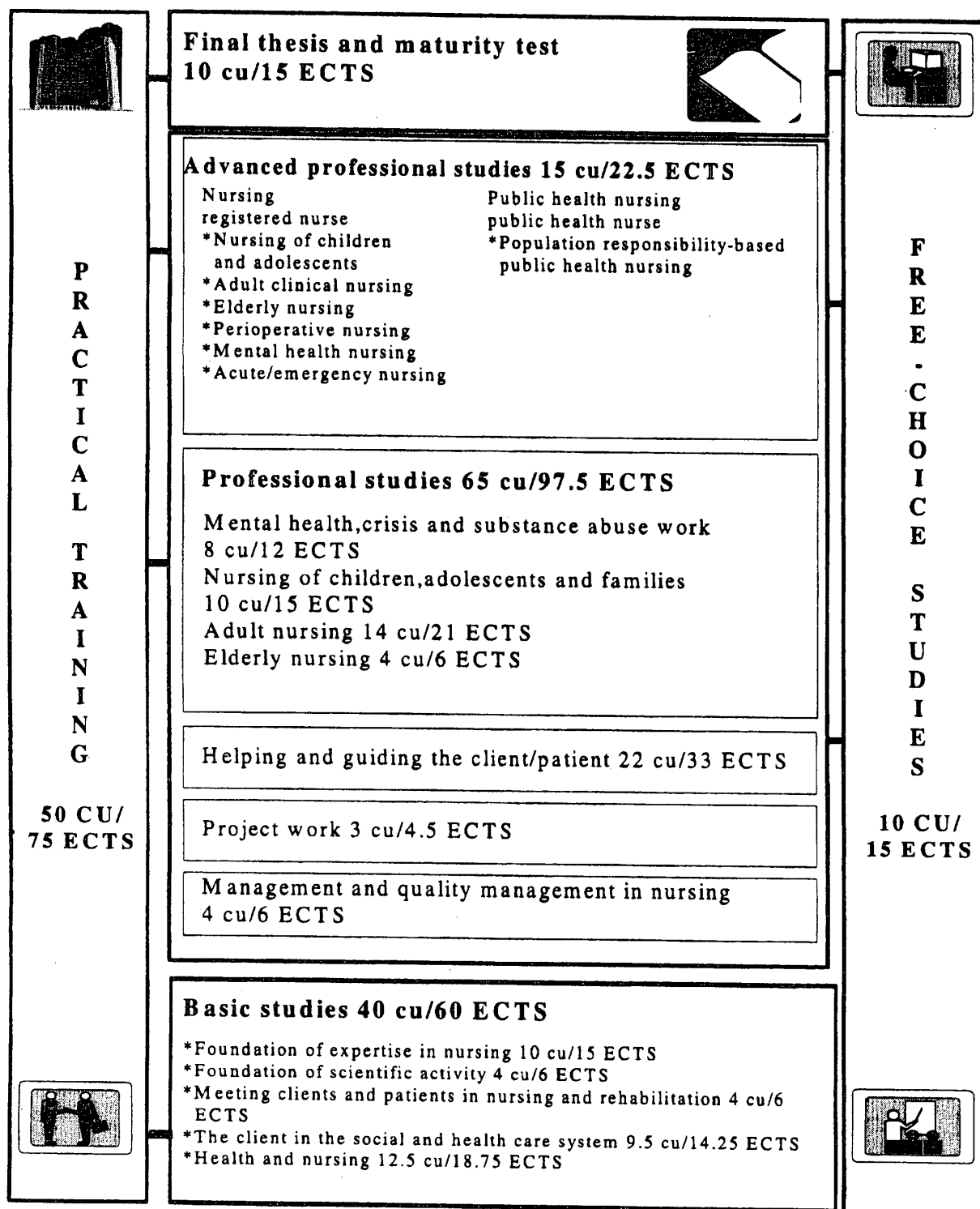


図3 セйнаヨッキ・ヘルスケア・ポリテクニクの学位取得プログラム

最初は基礎教育から始まり、ここでは、看護の基本を考え、個々および集団（地域）の健康維持・増進や安全な環境づくりのために必要な知識や技術を学び、語学とコミュニケーション技術を重視する。また、上級語学コースが自由選択となっており、最近では学生のアジア圏の言語や文化への関心が高い。

次の専門教育では、あらゆる年齢層の人々の看護と健康を守る専門家となるための土台づくりがなされ、専門

領域での本質的な問題と実施に適用する方法を学ぶ。看護学のほかに、医学、行動科学、社会科学などの関連する専門知識を習得する。

さらに高等教育では、専門領域をより深く掘り下げ、自立して専門的判断を下せるようになるためのレディネスを整え、このレディネスを評価するために、最終論文を書き、修了試験を受ける。

自由選択研究は、さまざまな専門知識の習得を目的と

して支援する。ここで、各段階における履修内容について具体的に紹介する。

1) 基礎教育 (第1学年)

- ①看護における専門技術・知識の基礎づくり 10単位
ポリテクニクスタディ、コミュニケーション技術
(筆記・口頭)、第1外国語(たいていは英語)・第
2外国語(スウェーデン語)、情報と科学、看護の
専門性の発展
- ②科学的活動の基礎づくり 4単位(1単位)
()内は実習の占める単位数
科学の原理と科学的手法、看護研究の哲学的基礎づ
くりと発展
- ③看護・リハビリテーションにおける患者との接し方
4単位(1単位)
社会心理学、相互作用とグループワーク、心理学、
社会学
- ④社会およびヘルスケアシステムにおけるクライエン
ト 9.5単位(2単位)
看護哲学と倫理、社会とヘルスケアの基本、フィン
ランドの社会と看護の国際化、環境と健康、公衆衛
生学
- ⑤健康と看護 12.5単位(3単位)
解剖・生理学、微生物学、人々の健康と安寧体育学、
美術、看護の歴史、看護学概論、特殊環境における
健康管理

2) 専門教育 (第2, 3学年)

- ①患者およびクライアントへの援助・指導
22単位(8.5単位)
援助技法と看護、リハビリテーション看護、化学療
法、臨床薬理学、内科・外科学概論、スピリチュア
ルケア、臨死患者の看護と悲哀、栄養学、看護教育
学、実験医学
- ②看護管理学 4単位(1.5単位)
看護管理学概論、看護管理と質保証、産業看護
- ③精神保健学 8単位(3.5単位)
精神保健看護学、臨床心理学、精神医学、危機介入
理論、物質乱用と嗜癖
- ④小児、思春期、家族看護学 10単位(4単位)
家族の健康と安寧、家族社会学、マタニティケア、
産科・婦人科学、小児・思春期看護、発達心理学
- ⑤成人看護学 14単位(10.5単位)
外科の看護、術前の看護、集中治療室の看護、救急
看護、婦人科の看護、麻酔学、成人期のヘルスケア
- ⑥老人看護学 4単位(2.5単位)
高齢者の看護、老年医学・老人学

3) 高等教育 (最後の半年間)

〈RN 志望の場合〉

- ①小児・思春期看護学 15単位(8単位)
- ②成人臨床看護学 15単位(8単位)
- ③老人看護学 15単位(8単位)
- ④術前看護学 15単位(8単位)
- ⑤精神保健看護学 15単位(8単位)
- ⑥急性期・救急看護学 15単位(8単位)

〈PHN 志望の場合〉

- 公衆衛生看護学 15単位(8単位)

各科目の成績は、5:Excellent, 4-3:Good, 2-1:Satisfactory, 0:Failの6段階評価となっており、口頭・筆記試験、課題や実習への取り組み、自己評価、学生同士の評価でつけられる。

各段階に組み込まれている実習は、理論の学習を通して得られ積み重ねられてきた専門家としての資質と実践が統合される機会となる。1990年代初め、EUの指導に従い実習期間が延長され、現在ではプログラム全体の3分の1(50単位)を実習が占める。実習場所は、フィンランド国内外で、医療機関の病棟や外来クリニック、一般家庭、老人ホーム、リハビリセンター、デイセンターなどで行われる。専門教育、高等教育の期間中の実習を外国で行うことも可能である。

実習の評価については、実習の初めに学生、教員、臨床指導者の三者で面談をし、教員側と学生個人の目的を明確にした学習契約書を作成する。そして終了時に、再び面談を行い、学生は目的達成度合いについて報告し、どの技能を強化する必要があるかを記述する。成績は最終評価会で協議され不可または可がつけられる。また最近では、実習先において看護手順遂行の評価をするために、付加実践証明試験と称するものを導入している。

Ⅲ. トゥルク大学における看護教育

次に大学院の教育が行われているトゥルク大学とタンペレ大学の紹介をする。

フィンランドのユニバーシティ(総合大学)は大学院大学であり、トゥルク、タンペレ、ヘルシンキ、クオピオ、ヴァーサ、オウルの6大学がある。

トゥルク大学は1920年に設立され、1943年に医学部、1986年に看護学の修士課程が開学され、これはカレッジの教員を養成するための看護教育コースであった。1987年から保健管理学の教育が始まり、1991年にCNSコース、1998年に研究プログラムがつけられた。現在、トゥルク大学には看護学部ほかに医学部、歯学部、理学部がある。看護学部には修士課程(Master of Health

Sciences in Nursing) と博士課程 (Licentiate or Doctor of Health Sciences in Nursing と Doctor of Health Sciences in Nursing) がある。スタッフは、Professor 1 名, Associate Professor 1 名, Assistant Professor 1 名, Senior Lecturer 2 名, Research Associate 1 名, Instructor 1 名で構成されている。

修士課程は、教員養成のための看護教育トラックと CNS トラックとに分かれており、CNS トラックには急性期ケアと老年ケアがある。現在、約200名が在学している。学生は、科学的手法と情報・知識を応用する方法をトレーニングし、ヘルスケアシステムおよびソーシャルサービスを理解し、研究や教育のための学術的基盤づくりをすることが期待されている。カリキュラムは、ベイスック、インターミディエイト、アドバンスドで構成されている。

博士課程はライセンスエディとドクターとに分かれており、約50名が在学している。

また、ヨーロッパをはじめ、アメリカ、カナダの大学とコラボレーションを積極的に行い、奨学制度のサポートにより学生および教員の交換留学、さまざまな共同研究を行っている。国内においても、トゥルク大学附属病院と連携し、研究と臨床の充実を図っている。

研究においては、「看護の価値と倫理」「看護実践における意思決定の構造」「看護実践と教育の評価指標の開発」という3つが主なテーマとなっており、いずれの研究もヨーロッパ諸国やアメリカとの共同プロジェクトとして進められている。

IV. タンペレ大学における看護教育

タンペレ市はフィンランドの首都ヘルシンキから北へ175km離れたところに位置する人口19万人、国内第3の都市であり、180にも及ぶ湖が町を取り囲んでいる。タンペレ大学は唯一大学院レベルで精神看護学を独立した領域として開講している。1981年に医学部の中に看護学が開講され、1990年に看護学部となった。スタッフは、Head of Department, Professor 1 名, Senior Lecturer 4 名, Senior Assistant Professor 3 名, Assistant Professor 1 名, Researcher 2 - 6 名で構成されている。専門は看護教育、看護管理、精神看護、家族看護の4つの領域がある(図4)。学生は全員一般科目、看護科目を必修とし、自分の専攻する領域を選択する。各領域では、教育と学習方法(看護教育)、地域における働く場のダイナミクスとスタッフトレーニング(看護管理)、退院後の患者の治療とケア、看護における患者の役割(精神看護)、家族の安寧、家族ダイナミクス、家族の健康と悲嘆(家族看護)に焦点をあてた研究がなされてい

ADVANCED STUDIES IN NURSING SCIENCE 20 credit units THESIS 20 credit units			
SUBJECT-SPECIFIC STUDIES 35 credit units			
Programme of nursing education	programme of nursing administration	programme of psychiatric nursing	programme of family nursing
OPTIONAL SUBJECT STUDIES 20 credit units			
SUBJECT STUDIES IN NURSING SCIENCE 23 credit units			
BASIC STUDIES 19 credit units			
GENERAL STUDIES 23 credit units			

図4 タンペレ大学の修士課程プログラム

る。

修士課程(Master of Nursing Science)では160単位の取得が必要であり、このうち30単位はポリテクニークでの学位をあてることができる。現在、300名が在学している。

博士課程(Licentiate and Doctorate degrees)には60名が在学しており、国内および国外の提携している他大学の博士課程でも学ぶことができる。

また、地域のヘルスケアセンターや病院との連携、国際的な研究プロジェクトへの参加、ローマ、ロンドンの大学とで組織されるプログラム(Socrates-programme)のコーディネーターとして学生と教員の交換留学にも力を入れている。

V. まとめにかえて

今回のフィンランドへの研修は、11泊12日(現地滞在9日間)、滞り場所のトゥルク市を拠点にしての精神科関連施設と大学の訪問・見学、学会参加が目的であった。

いずれのポリテクニーク、大学も、教育と研究の充実を図るために、地域の教育機関や医療機関と密に連携し国際交流や海外との共同研究に熱心に取り組んでいた。特にポリテクニークの看護教育においては、実践的技術の習得が再び重視されてきており、理論と実践を統合するためのカリキュラム作りに頭を悩ませているようであ

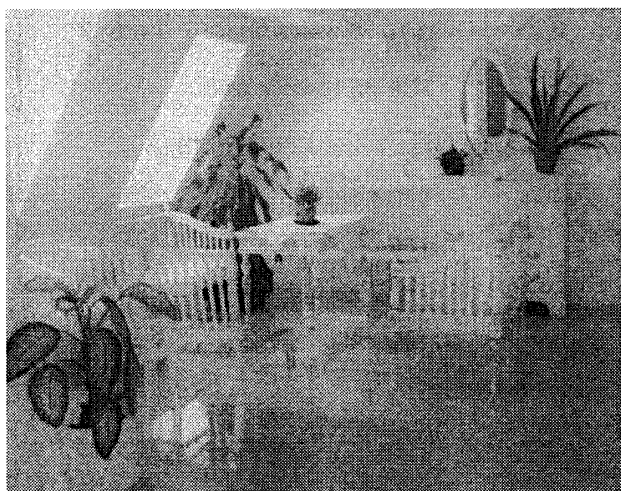


写真1 精神病院のフロア

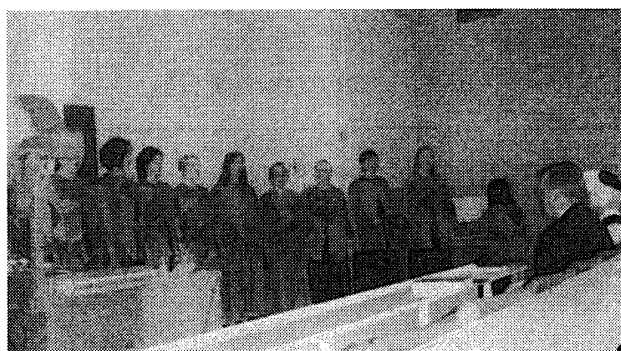


写真3 学会オープニング

る。トゥルク大学、タンペレ大学は大学院大学というせいもあるためか、研究志向の強さがうかがわれ、教員のエネルギーあふれる姿勢が印象的であった。

また、第3回 JANS 国際会議にて基調講演をされたトゥルク大学看護学部教授の Helena Leino-Kilpi 先生のお宅で心のこもった歓迎を受け、Helena 先生のご家族の他に、子供同伴で同じ学部の教員や大学院生も見えられた。今回は歓迎目的であったが、このようなホームパーティを時々開くということを聞き、職場以外で教員同士あるいは教員と学生との交流の機会があることは珍しいのではないだろうか。教員とのミーティングでも、どのようにして教員間および学生間の相互交流を進めていくかという話題が中心だったことからもうなずける。

特徴的だったのは、精神病院や施設の一角には必ずくつろげるような美しい椅子やテーブル、植物があり、患者あるいは利用者が家庭的な雰囲気の中で過ごせることを大切にしているのが伝わってきた(写真1)。

学会(The First International Nursing Conference Developing Nursing Practice by Education and Research)会場となったセイナヨッキ・ヘルスケア・ポリテクニックは、日本でいえば地方の小都市にある大学に似ており、白樺林に囲まれ空気が澄みきっていた。学会

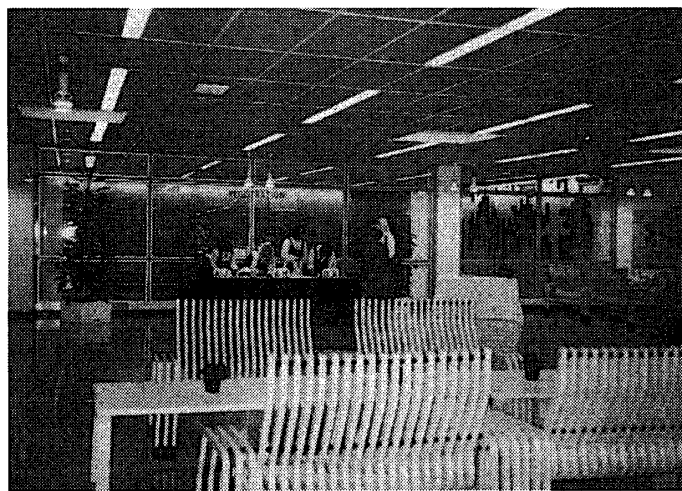


写真2 セイナヨッキ・ヘルスケア・ポリテクニック

会長のポリテクニックの教員をはじめ学生たちがフィンランドの民族衣装をまとい、学生による合唱(写真2, 3)で開会となった。コーヒープレイクの時間になると、休憩室では学生たちが飲み物とプチケーキやクッキーなどをセッティングしていた。教員と学生が一緒になって学会を運営しており、非常にアットホームな感じであった。学会参加者はフィンランドから80~90%と圧倒的に多く、その他、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ギリシア、アルバニア、ポーランド、中国、日本など世界各地域からであった。

最終日にふと立ち寄った教会でたまたま行われていた“service for women”に参加することができ、心穏やかに帰路の途についた。今回、フィンランドの風土を肌で感じ、人々の暮らしや医療保健・福祉の一部を垣間見ることによって、ヨーロッパの一国として重要な役割を果たしていることを知り、さらに関心を深めることができた貴重な海外研修であった。

文 献

- 1) Welcome to Turku Polytechnic Finland (学校案内パンフレット)
- 2) Polytechnic: Study Guide, Seinajoki Institute of Health Care, Seinajoen Ammattikorkeakoulu, 1999-2000.
- 3) アンネリ・サラヤル, ヨウニ・トゥオミビ: フィンランドにおける看護学生のための実習, インターナショナルナースングレビュー, 23(5), 70-73, 2000.
- 4) University of Turku Department of Nursing Science (学校案内パンフレット)
- 5) University of Tampere Department of Nursing Science (学校案内パンフレット)

Abstract

Nursing Educational System in Finland

Eriko Mizuno, R.N., P.H.N., Ph.D.¹⁾

This paper describes Finnish nursing degree programme. In May 2000, I had an opportunity to visit several institutions of higher education and universities in Finland. Finnish educational system is not so well-known to us as compared with that of Europe and America. I observed and learned about Finnish nursing educational system and social resources, by visiting several hospitals and universities.

key words

Finland, nursing, education, degree, programme, post graduate course

1) St. Luke's College of Nursing, Psychiatric & Mental Health Nursing